

第35回東海再処理施設安全監視チーム コメント整理表

令和元年12月6日  
再処理廃止措置技術開発センター

分類	コメント内容	対応の考え方
TVF原因調査・対策	<p><b>【流下ノズルの傾き】</b>                      ○初期の芯ずれとノズルの傾きに因果関係があるのか。                      ○初期の設計段階で芯ずれが管理できておらず、35%も許してしまったところにて失敗があったのではないかと。インナープレートを付けた後、そのブロックの押さえがあり、据え付け時の芯ずれの回避が難しいというのであれば、結合装置の方の工夫によって、芯ずれを吸収する等の考え方がある。結果的に芯ずれと変形が同じ方向になった、現在の事象に至ったということを考えてどうしても設計に不十分な点があったのではないかと。基本的にその初期の芯ずれというのを小さくする工夫が要るのではないかと。</p>	
	<p>○今回のノズルの変形が新知見であったとしても、これからケース1、2、3を考えていくときに、やっぱりこの限界というのを見極めといったことを体系的に考えていかないと同じことが起こってまた場当たりの対応をするということになる。限界の見極めというのが大事ではないかと。</p>	
	<p><b>【画像解析】</b>                      ○グラフがばらついていることを考慮して、ノズルとコイルのクリアランスをどう確保するかの考えがないと、同じ失敗を繰り返すことになる。今回説明がなかったので、検討が必要。限界の見極めが必要なのではないかと思う。</p>	
	<p><b>【原因調査・対策】</b>                      ○これまでの原因調査結果を、設計・製作・運転にどう反映するかについて今回説明がなかったので、今後しっかりと対応して欲しい。</p>	
TVF再開工程	<p><b>【スケジュール：工程短縮】</b>                      ○技術的に視点が足りてなく、もっとスケジュールを詰められるのではないかとという印象。線表の積み上げの妥当性についての説明が不足している。                      ○工程の組み方が旧来のシーケンシャルなやり方。フロントローディングの考え方で設計をしながら制作をするのが主流であり、旧来のやり方を行っていることに疑問である。プロジェクト管理は民間等の知恵が必要であり、新しいプロジェクト管理に取り組んで欲しい。                      ○廃止措置の意義は高レベル廃液を早く安定化してガラス固化するというのが一番大きな目的であり、それを認識し活動しているか理解できず、次回には明確に示して欲しい（抽象的でなく、具体的に提示して欲しい）。                      ○TVFの次回運転の具体的スケジュールに対し、見積が甘いと考えており、前倒しを阻害する要因（技術力、関連機器の取り合い、契約手続き、材料手配、設計・製作、機構組織の問題、予算、メーカーとの関係）は何なのか十分認識してそれを解決しながら加速する具体的な方策を示して欲しい。                      ○高レベル放射性廃液処理に関する早期リスク低減に向けた前倒しを含めた最適化を山本理事にお願いしたいと思う。</p>	
	<p>○別添資料-2の必要な作業について、早期のリスク低減を図るという観点で、どのような細かい作業の積み上げにより、このようなスケジュールになっているか、内容の具体例・代表例を提示して欲しい。</p>	
	<p><b>【スケジュール：成立性判断】</b>                      ○ケース1の成立性判断は誰がどのように判断するのか明確にして欲しい。</p>	

分類	コメント内容	対応の考え方
TVF再開工程	<p>【スケジュール：3号溶融炉】</p> <p>○ケース2とケース3の関係性について、ケース2とケース3はほぼ一体であって進めていくもので、ケース3を行う判断はケース2のどの時期で行うか明確にして欲しい。</p> <p>○ケース3の運転の時期（令和6年度）はどういう観点をもって定めているか説明して欲しい。</p> <p>○ケース3はケース1・2が適応できない場合ではなく、いずれ必要なものではないか。また、3つのケースは全てパラレルで行うものなのか。</p>	
	○ケース3を早く進めるために、前倒しで材料手配する等、機構として考えて改善すべき余地があるのではないか。この基本設計というのは、機構として設計はしませんという意味なのか、何ができるのかというのを考えていただきたいと、当然早期に機構として何ができるのか、何をすべきなのかということも含めて対応して欲しい。	
	○ケース1とケース2がうまくいかず、ケース3で進んだ場合、2号溶融炉のガラスの取り出しなど現在とるべき手段がとれなかった場合、どのような措置があるのか、どのような資機材が必要なのか説明して欲しい。	
モチベーション	○高レベル放射性廃液をどう捉えて、リスク低減に対してどう取り組んでいくかの気概が足りないのではないのか。	
	○モチベーションの維持については、トランシーバーのレポートの方が出来がよく、こちらは何をしたいのかわからない。急いでこれらを無理に出してもらう必要はなく、今後継続して取り組んで頂き、その成果を適宜提示して頂きたい。	
申請の仕方	○安全対策の申請（例えばTVFの安全対策について）基本設計と設工認とあるがこの切り分け方やスケジュールが正しいのか説明して欲しい。	
安全対策の工程	○高レベル廃液は冷却と掃気のシステムが止まれば蒸発乾固とか大きな事故に繋がるにもかかわらず、廃止措置の申請の中で事故の選定はして、安全対策についてはその有効性も示さない申請になっており、非常に遅い。	
優先順位	○保管能力増強を急いでいるという割に、面談時コメント（自然通風換気の担保）の回答が得られてなく、ガラス固化も進んでいないなかで果たして優先順位が高いかよく検討して欲しい。	
	○ある程度見込みをもった形で審査していきたい。資源配分があるのでやりたいことだけを持ってこられても不信になる。工程についても全体管理をした上で、優先順位を示して欲しい。	
マネジメント	○廃止措置計画のプロマネ（調整し、資源配分し、優先順位を決める人）は誰なのか、次回会合に示して欲しい。	
	○廃止措置全体のマネジメントに関して、安全対策の分割申請は8月末にコメントをして、補正する旨の回答を得て、内容を削除するだけの補正で時間がかかる理由がわからない。社内の手続の観点も含めてよく考えて欲しい。	
	○JAEAの中で本部や拠点（核サ研）などの間の取り組みが全体としてわからないところもあり、うまくいってる所は採用し、うまくいってないところは反省し、うまくいくようなシステムを作って欲しい。	
優先順位、マネジメント	○ガラス固化がしばらく停滞するなかで、東海再処理施設の廃止措置の停滞することのないよう、この間に何をすべきか考え、山本理事主導のもと廃止措置の優先順位をつけたうえで、適切な工程管理を行い、早期の対応を実施してもらう。	